

「日々の理科」(第1664号) 2019 (H31), -1, 28

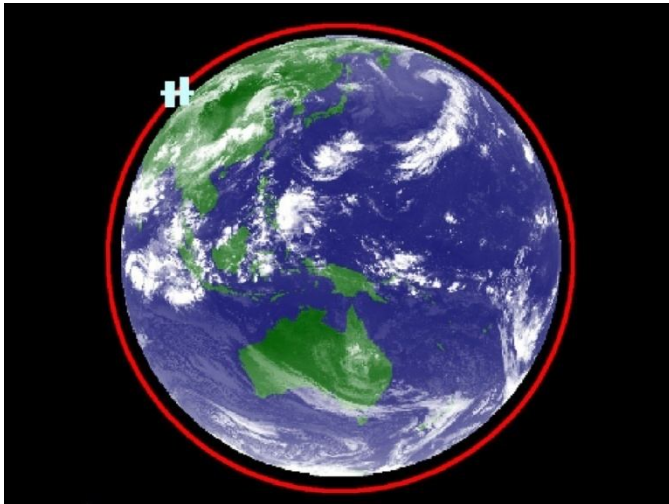
「東京でISSを観察する(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

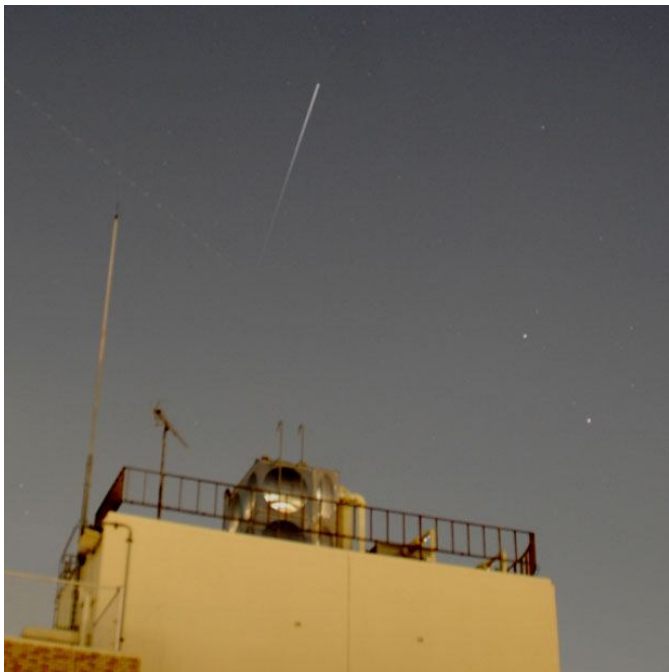
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ISSは「国際宇宙ステーション」を名乗っているが、実は地球上空約400kmの高度を飛行している。



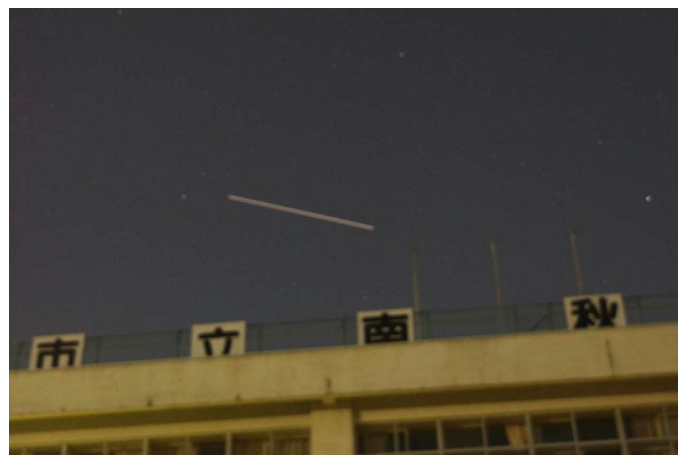
イメージとしてはこんな感じで、高度10000kmまでを「外気圏」(大気圏の一部)と呼ぶので、ISSは宇宙ではなく、大気圏の中を飛んでいることになる。しかし、これでは「宇宙ステーション」にならないので、NASAは高度100km以上を「宇宙」としている。



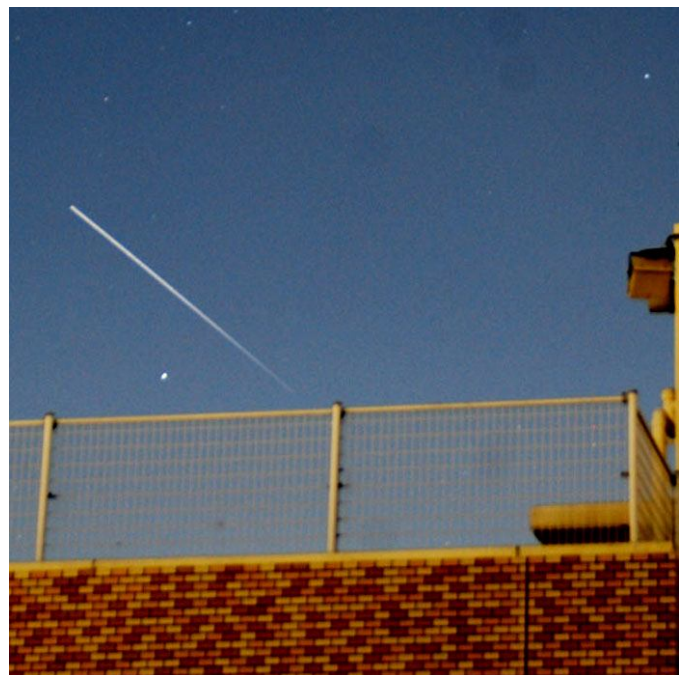
1月22日のISSでは、途中で「消える」という現象が見られた。これは、飛行体が「地球の影に入る」(日没を迎える)時に見られる。ISSは高度400kmなので、地上よりも日没が1時間以上遅いのだ。



翌々日の1月24日にもISSが見られた。この日は日本海上の飛行で、東京では最大仰角も30度以下で、あまり条件はよくなかった。



1月24日に立川の友人(理科の先生)が撮影したISSだ。高度が低く、飛行体は浅い角度で沈んでいる。



私はこの日も、職場の屋上でISSを撮影した。18時8分頃、ISSは地球の影に入り少しずつ減光、やがて消えた。一緒に観望していた同僚が感動していた。